

## 地域の方・学生・教職員が自由に活用できる持続可能なパブリックスペースを目指して

高田 昌寛<sup>1</sup>, 阪上 奈巳<sup>1</sup>, 熊部 翔<sup>1</sup>, 近森 聡<sup>2</sup><sup>1</sup> 藍野大学医療保健学部理学療法学科, <sup>2</sup> 藍野大学医療保健学部健康科学科

## 報告概要

2022 年度より本学キャンパス内で「就労支援 cafe “3s cafe”」を運営している。その中で、2024 年度と同様に、就労者と本学学生が交流する「地域交流会イベント」を開催した。本イベントに参加した学生らは、「スポーツ」を通じて、多様なコミュニケーション場面を経験した。「就労支援 cafe “3s cafe”」は、地域と大学の課題解決を目指し、社会的要望に応える医療専門職育成の一助となる活動を継続していく。

## 1. はじめに

本学では、2022 年度より「福祉的就労実践の場の減少（地域の課題）」および「医学を学ぶ学生の対外的コミュニケーション機会の喪失（本学の課題）」という二つの課題を解決する一手段として、キャンパス内に福祉的就労実践の場を拡げる取り組みを開始している。その中で、2024 年度と同様に、就労者と本学学生が交流する「地域交流会イベント」を開催した。本報告は、その実施状況および成果について述べる。本イベントの主たる目的は、参加学生が障がいのある方々との関係性構築におけるコミュニケーションスキルの重要性を再認識し、多様なコミュニケーション場面を経験することである。

## 2. 実施内容

藍野大学地域連携プロジェクトの承認（承認番号：20-T25001）を得て、2025 年 9 月 9 日（夏期休業期間）および 2026 年 3 月 12 日（春期休業期間）、計 2 日間、両日とも午前中に開催した。藍野大学（看護・理学療法・作業療法・健康科学科・臨床工学学科）に在籍する全学生に対し、参加希望を募った。学生自身のコミュニケーションスキルアップを達成するために、臨床心理士による「コミュニケーションの本質」に関する事前講義を参加学生を対象に実施した。その後、地域交流会イベント「ボッチャ大会（図 1）」を開催した。参加学生らは、「障がいのある方々の誘導およびゲーム補助」を実践した。参加学生に対して、本イベント終了後、Google Forms を用いてアンケート調査を実施した。

## 3. 結果・今後の展望

今年度の参加者内訳は、本学学生計 18 名（内訳：女性 6 名、男性 12 名、未回答 0 名）、社会福祉法人より計 24 名（延べ人数）の障がいのある方々、計 6 名（延べ人数）の職員である。2024 年度および 2025 年度の各人数内訳の比較は、表 1 に示すとおりである。本年度における学生の「本イベントの満足度」は、満足 15 名、やや満足 3 名であり、「次回もこの

ようなイベントがあれば参加したいか」に対して、15 名が「参加したい」と回答した。「コミュニケーション方法に関する事前講義の内容」について、「大変わかりやすかった（N=15, 83.3%）」、「わかりやすかった（N=3, 16.7%）」と回答し、「事前講義で得た知識・技術を地域交流会イベント内で活かすことができたか」について、「大変活かすことができた（N=11, 61.1%）」、「活かすことができた（N=7, 38.9%）」と回答した。地域交流会イベント参加学生に対するイベント終了後におけるアンケート自由記述結果については、表 1 に示すとおりである。「今後、自身の社会性／専門性に活かすことはできそうか」について、「かなりそう思う（社会性：N=11, 61.1%）／（専門性：N=10, 55.6%）」、「そう思う（社会性：N=3, 16.7%）／（専門性：N=6, 33.3%）」、「未回答（社会性：N=3, 16.7%）／（専門性：N=2, 11.1%）」、「わからない（社会性：N=1, 5.6%）／（専門性：N=0, 0.0%）」と回答した。

表 1 各年度における参加者数

	藍野大学学生の 参加者数	福祉事業所の 延べ参加者数
2024 年度 (男 / 女)	10 / 2 (83.3% / 16.7%)	12 / 5 (70.6% / 29.4%)
2025 年度 (男 / 女)	12 / 6 (66.7% / 33.3%)	18 / 6 (75.0% / 25.0%)

自由記述内容（表 2）を精査した結果、主に①参加動機、②イベントを通じた経験、③コミュニケーションに関する学び、④参加後の意識・行動の変化の 4 側面に整理された。参加動機としては「資格取得」、「ボランティア活動への関心」、「授業での経験（ボッチャ）」などが挙げられ、本イベントを学習機会として捉えている学生が多くみられた。参加後の感想では、「多様な参加者と関わることができた」、「一緒に楽しめた」といった肯定的経験が多くみられた一方、「ルール説明の難しさ」や「コミュニケーションの難しさ」といった実践的課題も認められ

た。また、「簡潔な説明」、「話すスピードや言葉を相手に合わせること」、「表情への配慮」など、相手に配慮した関わり方に関する具体的な学びが示された。さらに、「自ら声をかけられるようになった」など、参加後の意識・行動の変化もみられた。以上より、本イベントは学生のコミュニケーション能力や対人理解の向上に寄与する教育的機会であった可能性が示唆された。

昨今、就労移行・就労継続支援事業領域における医療専門職参画へのニーズが高まっている背景を鑑み、今後も「就労支援 cafe “3s cafe (さんず・かふえ)”」は、地域と大学の課題解決を目指し、社会的要望に応える医療専門職育成の一助となる活動を継続したいと考えている。

#### 4. 謝辞

地域交流会イベントにご協力いただいた「社会福祉法人：花の会」の皆様、ならびに、藍野大学に在籍し、参加いただいた学生の皆様および関係各部署教職員の皆様に対し、深謝いたします。



図1 地域交流会イベント「ボッチャ大会」  
※写真転載許可を得た上で使用

表2 地域交流会イベント参加学生に対するイベント終了後におけるアンケート調査結果（自由記述）

質問内容	回答
問 参加した主な理由	<ul style="list-style-type: none"> <li>・資格（公認初級パラスポーツ指導員）取得のため</li> <li>・楽しそうだったから</li> <li>・学校で行われる行事で参加しやすいと思った</li> <li>・コミュニケーションや対象者との距離感などを学ぶため</li> <li>・ボッチャを授業でした経験があり、すごく楽しかったから</li> <li>・ボランティア活動に参加してみたかったから</li> <li>・障がいのある方との関わり方を学び実習につなげたいと思ったから</li> </ul>
問 参加した主な感想	<ul style="list-style-type: none"> <li>・色々な方と関わることができてよかった</li> <li>・ルールなどを伝えるのが難しかった</li> <li>・接し方はすごく難しかったが、みんなで楽しくボッチャができたのでよかった</li> <li>・思った以上にコミュニケーションを取ることが大変だった</li> <li>・コミュニケーションのとり方を学べるよい機会だった</li> <li>・ボッチャを通じて一緒に楽しみ、お話をさせていただいたのがすごくよい経験でした</li> <li>・コミュニケーションの取り方や接し方も学べてとても楽しかった</li> </ul>
問 イベント参加前後で自身の变化したと思う点について	<ul style="list-style-type: none"> <li>・障がいのある方へのコミュニケーションの工夫点が少しわかった</li> <li>・簡単に説明することが何よりも大切だということ</li> <li>・何となく喋りかけ方がわかったような気がします</li> <li>・相手の気持ちに寄り添うことが必要だと思いました</li> <li>・無理に話しかけなくてもいいということ</li> <li>・相手の話し方に合わすと楽しそうに見えました</li> <li>・人によって話すスピードや使う言葉を気を付けるということ</li> <li>・自分から少し声をかけられるようになった</li> <li>・相手の表情にも着目しなければいけないということが意識できるようになった</li> <li>・緊張しすぎないことがコミュニケーションを取るひとつの方法だとわかった</li> <li>・相手の方に合わせることや簡単に分かりやすい反応をすることが大切だとわかった</li> </ul>